

授業科目

臨床栄養学特論III

| | | | | |
|--|------|----|-------|-------------------------|
| 担当教員名 伊藤 直子、岩森 大、山崎 貴子、今井 信行、 岡田 史 他 | 対象学年 | 1 | 対象学科 | 保健学・健康科学・社会福祉学・ 医療情報 |
| | 開講時期 | 後期 | 必修・選択 | 選択 |
| | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

授業の概要

食事はQOLやADLの維持、向上に不可欠である。摂食・嚥下のメカニズムやこれらの機能障害について理解し、摂食・嚥下に対する訓練、摂食嚥下の状態に応じた食事について、管理栄養士のみならず、歯科医師、言語聴覚士、社会福祉士など様々な職種の視点から摂食・嚥下について学ぶ。

授業の目的

本授業では、摂食・嚥下機能障害に関する基本的事項を理解し、摂食・嚥下チームアプローチにおいて管理栄養士としての役割を果たすことができる知識と技能を養うことを目的とする。

学習目標

1. 摂食・嚥下障害の実態とメカニズムについて説明することができる。
2. 摂食・嚥下の検査及び訓練について説明することができる。
3. 摂食・嚥下困難者に適した食事の物性について説明し、食事の選択をすることができる。
4. 摂食・嚥下困難者を取り巻く環境と食事における問題点や注意点を示すことができる。
5. 各職域における摂食・嚥下機能障害者に対する管理栄養士の役割について具体的に考え、工夫することができる。

授業計画

| 回数 | 授業計画・学習の主題 | 学習方法・学習課題・備考 | 担当教員 |
|----|----------------------------|-----------------------------|----------------|
| 1 | 摂食・嚥下障害のメカニズム | 摂食・嚥下障害の生理学的メカニズム | 今井 信行 |
| 2 | 摂食・嚥下障害の検査・診断・評価 | スクリーニング、VF、VE映像 | 今井 信行 |
| 3 | 摂食・嚥下障害の治療・訓練 1 | 口腔ケア、訓練食など | 佐藤卓也 |
| 4 | 摂食・嚥下障害の治療・訓練 2 | 嚥下訓練方法など | 佐藤卓也 |
| 5 | 食品物性と食べやすさ、飲み込みやすさ | ユニバーサルデザインフード、嚥下困難者用食品の許可基準 | 岩森 大 |
| 6 | 摂食・嚥下障害者のための食事 1 | ソフト食・トロミ調整剤の物性測定 | 岩森 大、山崎貴子、伊藤直子 |
| 7 | 摂食・嚥下障害者のための食事 2 | 摂食・嚥下障害者のソフト食等、食事の実際 | 岩森 大、山崎貴子、伊藤直子 |
| 8 | 摂食・嚥下障害者のための食事 3 | 味覚(味、香り、食感) | 伊藤 直子、山崎貴子、岩森大 |
| 9 | 市販介護食品とその利用 | 市販介護食品の歴史、紹介、活用 | 田辺英児 |
| 10 | 病院における摂食・嚥下障害者と管理栄養士の関わり | 工夫や実際の症例紹介など | 近藤さつき |
| 11 | 施設における摂食・嚥下障害者と管理栄養士の関わり | 工夫や実際の症例紹介など | 清田優理佳 |
| 12 | 在宅における摂食・嚥下障害者と管理栄養士の関わり 1 | 在宅における食事の工夫や注意点など | 川村美和子 |
| 13 | 在宅における摂食・嚥下障害者と管理栄養士の関わり 2 | 実際の症例紹介など | 川村美和子 |
| 14 | 摂食・嚥下障害者の食環境 | 摂食時の注意点、食事介助と介護用食器等福祉用具の活用 | 岡田 史 |
| 15 | まとめ | レポート作成等 | |

使用図書

| 使用図書 | 書名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 | 価格 | その他 |
|--------|----|-----|-----|-----|----|-----|
| 教科書 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | |
| その他の資料 | | | | | | |

評価方法

レポート

履修上の留意点

オフィスアワー・連絡先

特に設けない。必要に応じ、各教員にメールでアポイントをとる。

今井信行 : imai@nuhw.ac.jp 岩森大 : iwamori@nuhw.ac.jp 山崎貴子 : yamazaki@nuhw.ac.jp
伊藤直子 : nao-ito@nuhw.ac.jp 岡田史 : fumi-o@nuhw.ac.jp